

道路運送と鐵道運送との協同協力に付て

喜 安 健 次 郎

近來道路の改良は目醒しき勢を以つて爲されつつあるのを見受ける。所謂産業道路と稱せらるるものが各地にその雄姿を現はしたことは、本邦産業開發、文化向上の爲慶賀に堪えぬ所である。所謂産業道路は勿論、今後施行せらるべき道路改良の目標の一つとしては、自動車といふものが這いつて居るといふことは言を俟たないことであらうと思はれる。最近に於ける自動車の進歩及之が利用の範圍の擴大は實に驚くべきものであつて、鐵道軌道の中には最早其の存在の意義を失ふが如きものすら生じ、又道路に付て自動車の通行し得るもののみに着眼して考ふるときも、近代人の要求する交通の觀念の下では、道路利用率の減少を感ぜしむるに至るであらう。即ち路在れども通ぜざるの歎きを抱かしむることは各地に於て經驗する處であらうと思はれる。

要するに従來の道路は自動車無かりし時代に築造せられたもの多く、經濟取引が地方的局部的である場合に於ては、左程苦痛でもないと思はれるが、近代の如く鐵道及自動車が發達し一般經濟狀態も活潑となり、その交渉の範圍も擴まるに及んでは、新規形態に依る道路運送の交通路として、その擴張、充實を要望するに至るは勢の當然である。鐵道軌道も、自動車の現在程利用されて居らなかつた時代に於ては、唯一の交通路として、經濟狀態の發展と共に頗る利用せられ、又經濟狀態の發展は鐵道軌道の發達普及を促した。鐵道軌道が今日の如き普及を見、陸上交通機關としての地位を得たこと

は、それ自身の中に長距離運送又は大量輸送に適する特性を有するとは云へ、他面之を自動車と相關的に見るときは、自動車に依る道路運送が、自動車の利用少かりしと、道路の改良が之に伴はざりしとに依ることが蓋し僅少ではなかつたと思はれる。

斯くの如き過去の情勢の下に現在國有鐵道約一萬五千料、地方鐵道約七千料、軌道約二千七百料の敷設を見、その投下資本は官私合せて約五十二億圓以上に及んでゐる。之が輸送人員は官私合せて一年約二十八億(內國鐵八億、私鐵四億三千軌道十五億七千)に及び、その輸送貨物は一年之も官私合せて約八千五百萬噸(內國鐵約六千萬噸)に達する。併し此輸送數量は最近の一般不景氣と自動車に依る運送の影響を受け漸次低下しつつあるのであつて之を五年前の昭和三年と比較すれば昭和三年の官私合せての輸送人員三十一億に比し、約三億少く、輸送貨物約一億七百萬噸に比し二千餘萬噸少ないのである。

殊にその影響は地方鐵道、軌道の如き地方交通を主たる目的とするものに於て著しく、建設費に對する益金割合をみれば大正十年を最高として何れも下り坂である。地方鐵道に於て之を見れば、大正十年の九分八厘を最高として、九分六厘、八分一厘、大正十三年も同じく八分一厘、同十四年以後は七分二厘(十四年)、七分一厘、六分四厘、六分一厘、五分四厘、四分二厘、三分八厘(昭和六年)、といふ工合である。又軌道も同様であつて、大正十年の一割二分六厘を最高とし同十一年以後は、一割二分三厘(十一年)、一割五厘、一割九厘、九分七厘、九分六厘、九分四厘、九分一厘、八分二厘、六分九厘、五分九厘といふ數字を示してゐる。之は先にも云ふ通り、一般不景氣に依る處は多少ありとするも、自動車に依る道路運送の影響を受くること決して鮮少ではないのである。然るに道路の改良は今後は少くとも自動車の通行をその目標の一つとせらるることは自然の要求であり、又國家産業の立場からみるも斯くの如き情勢になるべきであるから、新形態による道路運送と、軌條による鐵道運送とは今後之を如何に調和し、如何に統制すべきかは、現在及今後に於ける

重要な交通問題と考へざるを得ない。道路の改良と云ひ改築といふも、その完成されたるものの効果をみれば、現代の交通に適合した交通路の造築である。前のものとは異なる新らしき意味を有する道路の出現である。即ち道路運送に對して新らしき舞臺が提供せられたことになるのである。故に自動車に依る運送並に之と他の交通機關との連絡協同といふ點も道路の改良に伴つて一層考慮しなくてはならぬ問題と思ふ。道路運送が、主として牛馬車に依りし時代に於ては、軌道運送との連絡協同は自然と好調を迎ることにならうと思はれるが、自動車運送が道路運送の主要なるものとなり、道路も之に順應して新設改築せらるるに於ては、鐵道運送との協力は、放任し得ざる重要な研究問題となるからである。鐵道運送も道路運送も未だ發達せざる時代に於て、各其の特質に隨つて之が分野を定め、各種交通路と決定することは易いのであるが、已に鐵道軌道は其の延長併せて二萬五千軒に及び、道路も已に四通八達の狀況に在る時代に於て、之が統制には非常な努力を要することと思はれる。恰も都市計畫が荒野若は灰燼に歸した都市に於て行はれ易いが、既に一定の形を具へたる都市に於ては非常な努力を要すると同様である。道路の新設改築と云ひ、鐵道軌道の整備といひ、之を國全體から考へば、國の交通計畫である。故にその計畫にして當を得るならば、改良道路は最も適切なる施設としてその效用を發揮し、鐵道軌道は又之と相通じて國家産業の開發に資する處頗る大なるものありと思ふのである。幸ひ自動車に依る道路運送の事業に付ては、自動車交通事業法實施せられ、茲に制度も整つた次第であるので、自動車交通事業の統制は此の方面より十分の効果を擧げうると信ずる。尙聞く處によれば、來るべき國際道路會議に於ては、道路運送が、鐵道、水路及空路運送と爲すべき共同協力に對して一つの議題を提供してゐることであるが、寔に時宜に適したる問題であつて將來道路が自動車の如き高速度交通機關の交通路として使命を有するに至れば、その計畫及鐵道との連絡、交叉といふやうな點に付て、技術的にも經濟的にも、材題の示す所謂協同協力すべき事項は多々あることと思はれる。